様式２－２

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究
実施方法等

１．実践校について

実践校名	私立横浜富士見丘学園中等教育学校（しりつよこはまふじみおかがくえんちゅうとうきょういくがっこう）	
学科名	生徒数	学級数
（前期課程）　学科なし （後期課程）　普通科	４６０名	１９学級

２．実践研究の対象

中等２年生　42 名　２クラス

３．実践研究の実施経過

５月１２日（木）地域研究生徒発表会および第１回社会参画推進委員会開催
６月　２日（木）横浜市旭区市民活動センターにて講演会の打ち合わせ
６月２７日（月）横浜市旭区役所作成の地域紹介ビデオの市長
７月　１日（金）横浜市旭区環境保護団体による講演会
７月１１日（月）横浜市旭区国際交流推進団体による講演会
７月１５日（金）横浜市旭区役所職員による講演会
９月～２月　これまでの学習の中間まとめと地域の課題の検討
３月１６日（木）～１７日（金）横浜市旭区商店街街頭にてアンケート調査実施
３月１８日（土）～５月中旬　課題解決策の検討とまとめ
３月２４日（金）第２回社会参画推進委員会開催

４．実践研究の実施体制

「社会参画推進委員会」を設置し、行政(区役所)、商店、鉄道会社など学校外の教育力を活用する際の助言や紹介などさまざまな援助を依頼する。

５．教育委員会等として取り組んだ内容

特になし。

６．実践研究の評価等

①　当研究と教科指導との連携に関して、教科指導のカリキュラムの関係で、適切な時期に該当項目の教科指導を行うことができた。ただし、時間数は数時間程度にとどま

った。

② 当研究と教科指導との連携に関して、当該する教科主任および当該学年主任を社会参画推進委員会のメンバーに加えることで、前年度よりも緊密な連携をとることができた。

③ 生徒は、街頭アンケートやまとめ作業など、すべての取り組みにおいて極めて能動的に取り組んでいた。また、地域住民とのふれあいを通して、自分たちでは気づかないが、地域の人々から見守られていることに気づくことができた。

④ 生徒は、社会の中で実際に働いている人々との話し合いを通して、社会の中で働くことの意味や意義を実感することができた。

様式２－３

実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラム（概要）

実践校名：横浜富士見丘学園中等教育学校

概要

○　地域研究を通じて、社会の実情を主体的に学び、生徒自ら課題を設定し、その解決策を、集団討議などを通して提示する能力を育む学習プログラムを開発する。

学習プログラムのねらい

○　本研究に関わる基礎知識（地域の地理、歴史、福祉、観光、産業等、具体的には地産地消の農業分野、地域振興を含む）を生徒自らが主体的に学ぶ姿勢を育てる。

○　地域の諸課題を生徒自らが発見し、その解決策を集団的に討議し、提示する力を育成する。

学習プログラムの主な内容

①　講義（地域の実情を知る）

行政作成の地域紹介ビデオを視聴したのち、地域の古老や行政、地域のＮＰＯ団体などによる講演を聞き、地域の実情の概要を学ぶ。

②　フィールドワーク（地域に出て、アンケートをとる）

①で学んだ内容を下地にして、地域に暮らす人から地域に関する思いや願いを聞きとる作業を行う。

③　課題の発見（地域の課題を見つける）

①および②をもとにして、地域の課題を浮き彫りにする。また、不明な点があれば必要に応じて再度アンケート調査を行う。

④　課題解決に向けた活動（課題の解決策を検討し、地域に還元する）

③で発見した地域の課題に対して、その解決策を集団的に討議し、討議した内容を報告会にて社会参画推進委員やアンケート協力者および地域行政に提示する。

学習プログラムの成果の概要

○　生徒は、教科指導とは異なる取り組みに新鮮さを感じ、極めて能動的に取り組んでいた。

○　生徒は、地域住民とのふれあいを通して、地域の人々から日々見守られていることに気づき、地域に対して愛着をもつとともに感謝する気持ちを持つようになった。

○　生徒は、社会の中で実際に働いている人々との話し合いを通して、社会の中で働くことの意味や意義を実感することができるようになった。

○　地域諸団体、公共機関、教育機関と連携しながら、より広い、大きな視点から地域の諸課題を捉え、もってより良い国家・社会を形成していくにふさわしい主権者意識の涵養と社会参画の態度を育成する動機づけを行うことができた。